

---

# 遅咲きLife

嘩月 - ka「d/z」uki -

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遅咲きLife

### 【Nコード】

N5253L

### 【作者名】

嘩月・kard/zuki

### 【あらすじ】

-----

無茶苦茶な僕等は、我武者羅に進んでいて、光りもしない希望を追って。

確かに掴んだものが薄弱ならば、隙間から落ちて灰にもなるだろう。掌に残ったものにも気付かずに、落ちた灰を捜す。

曇った空と同じ色した街を眺めていた。

同調したように心は染まっていた。

瞳さえ、輝きを忘れ灰色。

卒業者は、社会に向けて諦め始めていた。

桜の日々が越えて、春雪が降った。

無気力な僕に与えられた春の延長。

失くした夢はもう、望みも感じもしなくなるだろう。

四六時中ずっと、有象無象の夢描いて、恐くても闇から逃げなかった。

無謀で浅はかものでありながらも、僕等が見ていた世界は輝いて。闇を照らしずっと続けていた自分は、もう何処にもいない。

歩道橋の上で笑う人達を見た。

昔を忘れて笑えるのなら、過去を捨てよう。

時計の針が右回り、静かに。

戻れないあの時、あの僕 - kimi - 。

鏡に映るのは知らない人。

虚な意識の中、知らない人の日々を覗いていた。

気付けばあの時の僕を眺めていた。

不意に零れた涙、痛む過去の想い。

眠りの中の夢、捨て去ったはずの夢が、僕を捜していた。

無茶苦茶な僕等は、我武者羅に進んでいて、光りもしない希望を追って。

確かに掴んだものが薄弱ならば、隙間から落ちて灰にもなるだろう。掌に残ったものにも気付かずに、落ちた灰を捜す。

犠牲となって落ちていく灰をもう望みもしないだろ。

一度は落としたものを捜し出して。

曇間から見える光りを受けて、笑える僕が今走る。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5253/>

---

遅咲きLife

2011年1月16日00時33分発行